

---

福 井 県 医 師 会

# だまり

第530号 平成17年(2005)8月

---



大火勢 大飯郡 高橋 豊

## 表紙写真説明：大火勢

大火勢とは、右図のようにヒノキを棹に数段横木を渡して木の葉型にした大型の大松明の事である。先端と横木の両端に乾燥させたアシヤススキの輪状の束が結び付けてあり、それ等に点火して燃え上がらせ、笛、鉦、太鼓を鳴らしながら立ち上げ、火花を散らして回転させたり、倒してまた起ち上がらせたりすると、その勇壮、爽快、荘厳さに、見る者すべて思わず歓声をあげる。

元来、愛宕信仰に基づく火災鎮護の祭りで、毎年愛宕神社まで行き、火を貰い受けてきて、悠久の炎として灯し続け、毎年その火で点火する。福井県の無形民俗文化財に指定されている。

大飯町の各地区で伝統的に行われてきたが、福谷地区のものは、江戸時代初期に始まるといわれている。

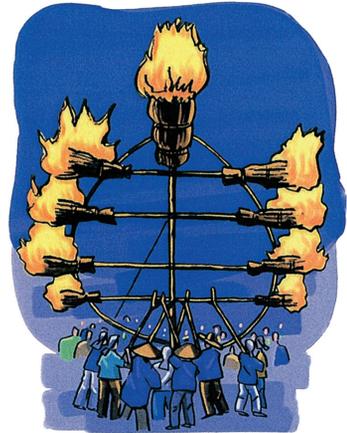
大火勢に対し小中学校の子供だけで行われる小火勢と呼ばれる行事がある。火勢は樟約5m、横木三段、大火勢の小型版であるが、実はその原型といわれる。昔は各地区で行われていたが、今ではほぼ昔の形で続けられたのは、父子地区だけといわれる。

ここでは、大火勢はお盆に、小火勢は、7月24日と8月24日の愛宕祭りと、7月28日と、8月28日の不動祭りの年4回行われてきた。4～5年前から子供人口の減少で危機に瀕し、竹の先の葉に火を点ける松明の形から、最近では地面で葉を燃やす程度になった。地区の保存会の人々は、少子化からの脱出を切に願っている。

一方、平成7年、大飯町の町制施行40周年を記念して、この火勢行事を大飯町のシンボルとして取り上げ、大火勢を一回り大きくし、高さ20m、横木7段、重さ約1125kg、「若狭おおいのスーパー大火勢」としてスタートした。若狭の夏の一大イベントとして広く知られるようになり、県内外から5万人を越す観衆が訪れ、会場内は熱気と興奮に包まれる。小浜湾の南西端にある青戸の入り江に浮かべた船を並べ平板を敷き、上記スーパー大火勢を運び込んでおく。夕闇が迫る頃、500人を越える参加者の松明行列が火の河をなして大火勢船に火を送り込む。くだんの火勢に点火する。若衆達が「ヤッサー、ヤッサー」のかけ声勇ましく燃えさかる大火勢を立ち上げる。闇夜に火の輪が大きく浮かび上がる。舞い散る火の粉を振り払いながら回転を始めると、その大迫力に一齐に歓声があがり、若衆の勇姿に盛大な拍手が送られる。

燃え盛る火の輪は海の水面に映えて、特別の情緒を醸し出す。見守る観衆の想いはそれぞれに、五穀豊穡、大漁、家族安寧、死者への鎮魂など願い、祈りは様々である。

本年も8月第一土曜の夜に、大飯町町制施行50周年を迎え、一段と盛大に荘厳にこのイベントが催される事と期待される。



大火勢の模型図  
各地区の比較的小型のもの



入江の海面に浮かぶ舟々に敷きつめられた平板を舞台に点火された大火勢



いよいよ大火勢の起ち上がり

出典：1) 温故：町制施行50周年記念アルバム。発行：福井県大飯町企画課。平成16年12月。

2) 大飯町の語り部たち 発行：関西電力大飯発電所。政策協力：猿橋 勝（郷土史家）。平成13年2月。

## 地域医療の充実に向けて

坂井郡医師会長 野村 健一



平成17年3月20日坂井郡医師会総会において、坂井郡医師会会長に選出され責任の重大さに身の引き締まる思いです。

現在、平成の大合併にて市町村合併が進んでおりますが、それに伴い郡市医師会の再編成の問題が生じてきています。幸いにも当地区はあわら市（旧芦原町、旧金津町）と坂井市（三国町、坂井町、春江町、丸岡町の四町が来年3月に合併する予定）が旧坂井郡としての枠内であり、当医師会は今後とも両市を含めた会員構成を維持していく予定です。

地域医療を担っている郡医師会としては、横の繋がり、即ち会員がお互いに協力して地域医療にあたることが大切だと思います。介護保険制度が2000年4月から実施され、開業医は以前と違って福祉に関する知識も必要となってきております。

当地区で現在医師会員が運営している福祉施設は介護老人福祉施設3、介護老人保健センター3、有料老人ホーム1、身体障害者療養施設1、ケア・ハウス2ヶ所であり、それぞれ在宅サービスをおこなっています。一方、当医師会は、医師会館内に共同利用施設「ケアセンター」を設置しており、在宅介護支援センター部、訪問看護ステーション部、ヘルパーステーション部、デイサービスセンター部などを運営しています。このケアセンターは、在宅サービスを持たない医療機関を支援するために設置されました。各サービス部会並びに運営委員会が毎月開催され、それぞれ会員が所属して運営にあたっています。

その部会に参加することにより、福祉の知識を得るのみでなく横の繋がりが自然にできており、その意味でも非常に意義のある事業ではないかと思っています。

会員数は3月31日現在89名で、県内の郡市医師会では福井市医師会について多く、その内訳はA1会員56名、A2会員22名、B会員11名で、病院数は7（国公立2、私立5）、診療所50（有床17、無床33）であり、医療機関もほぼ充足している状況です。

最近、在宅死を迎えられる患者さんが2割程度しかいないと報じられています。しかし、患者さんが自宅で死を迎えたいと思ってもなかなか叶えられないのが実情です。その対応として、往診されている先生方による在宅医療ネットワーク（仮称）をつくるなど、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

そのほか、生活習慣病、認知症対策など、行政のご支援をいただきながら、医師会全体として取り組んでいくことも考えています。

地域医療充実に向け、当医師会一体となって努力してまいりますので、今後とも諸先生のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。